

2026年2月期
第1四半期決算説明資料

プログレス・テクノロジーズ グループ株式会社
2025年7月14日



PROGRESS
TECHNOLOGIES



目次

①	2026年2月期 第1四半期決算概要	-----	3
②	2026年2月期 通期連結業績予想の修正	-----	12
③	Appendix	-----	15
	(IR活動 / プロGRESS・テクノロジーズ グループの紹介)		

2026年2月期 第1四半期決算概要

2026年2月期 1Q 連結業績サマリー

連結売上収益・売上総利益、事業別売上収益・売上総利益ともに第1四半期は計画通りに進捗。2026年2月期は業績が下期に若干偏重する見通しであることから、第1四半期においては前期比減益での着地。

売上収益

1,544百万円

0.0%

(前1Q比)

売上総利益

683百万円

△5.1%

(前1Q比)

営業利益

370百万円

△19.9%

(前1Q比)

税引前利益

353百万円

△21.4%

(前1Q比)

当期利益

237百万円

△26.4%

(前1Q比)

※1 年間計画 売上進捗率

24.8%

△2.5pt

(前1Qとの差)

※2 ソリューション 比率 (含むデジタルツイン)

61.7%

+2.0pt

(前1Qとの差)

売上総利益率

44.2%

△2.4pt

(前1Qとの差)

営業利益率

24.0%

△5.9pt

(前1Qとの差)

当期利益率

15.3%

△5.6pt

(前1Qとの差)

連結業績概況（1Q）

通期業績予想（修正後）に対する1Q時点での売上収益の進捗率は24.8%。例年と比較するとスロースタートとなるも、第1四半期は計画通りに進捗。

2025年3月～ 2025年5月(3ヶ月) (百万円)	前1Q		当1Q					通期業績予想	
	実績	売上 構成比	実績	売上 構成比	前期差	前期比	進捗率	計画	売上 構成比
売上収益	1,544	100.0%	1,544	100.0%	0	100.0%	24.8%	6,236	100.0%
売上総利益	720	46.6%	683	44.2%	△ 37	94.9%	24.7%	2,765	44.3%
販売費及び一般管理費	261	16.9%	308	19.9%	+47	118.0%	24.0%	1,284	20.6%
その他の収益	7	0.5%	0	0.0%	△ 7	0.0%	0.0%	201	3.2%
その他の費用	4	0.3%	4	0.3%	0	100.0%	11.4%	35	0.6%
営業利益	462	29.9%	370	24.0%	△ 92	80.1%	22.5%	1,648	26.4%
税引前四半期利益／ 税引前利益	449	29.1%	353	22.9%	△ 96	78.6%	22.3%	1,586	25.4%
四半期利益／ 当期利益	322	20.9%	237	15.3%	△ 85	73.6%	21.6%	1,098	17.6%

※1 進捗率は通期業績予想（修正後）に占める第1四半期実績の割合を示しております。
※2 通期業績予想は修正後の数値を記載しております。

事業別業績概況（1Q）

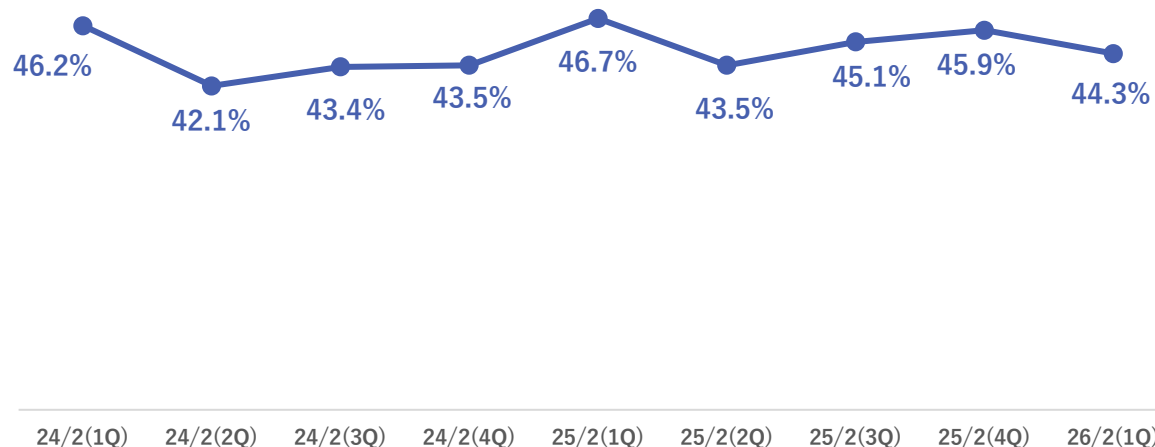
ソリューション事業・エンジニアリング事業は前年同期比減収・減益となるも、計画通りの進捗であり、通期計画の修正は不要と認識。デジタルツイン事業は売上収益前期比+156.3%となるも、米国の関税政策等の自動車業界への影響を鑑み、売上収益・売上総利益ともに通期計画を修正。

2025年3月～ 2025年5月(3ヶ月) (百万円)		前1Q		当1Q			
		実績	売上構成比 粗利率	実績	売上構成比 粗利率	前期差	前期比
ソリューション事業	売上収益	889	57.6%	870	56.3%	△ 19	97.9%
	売上総利益	528	59.4%	483	55.5%	△ 45	91.5%
デジタルツイン事業	売上収益	32	2.1%	82	5.3%	+50	256.3%
	売上総利益	18	56.3%	46	56.1%	+28	255.6%
エンジニアリング事業	売上収益	622	40.3%	591	38.3%	△ 31	95.0%
	売上総利益	173	27.8%	153	25.9%	△ 20	88.4%

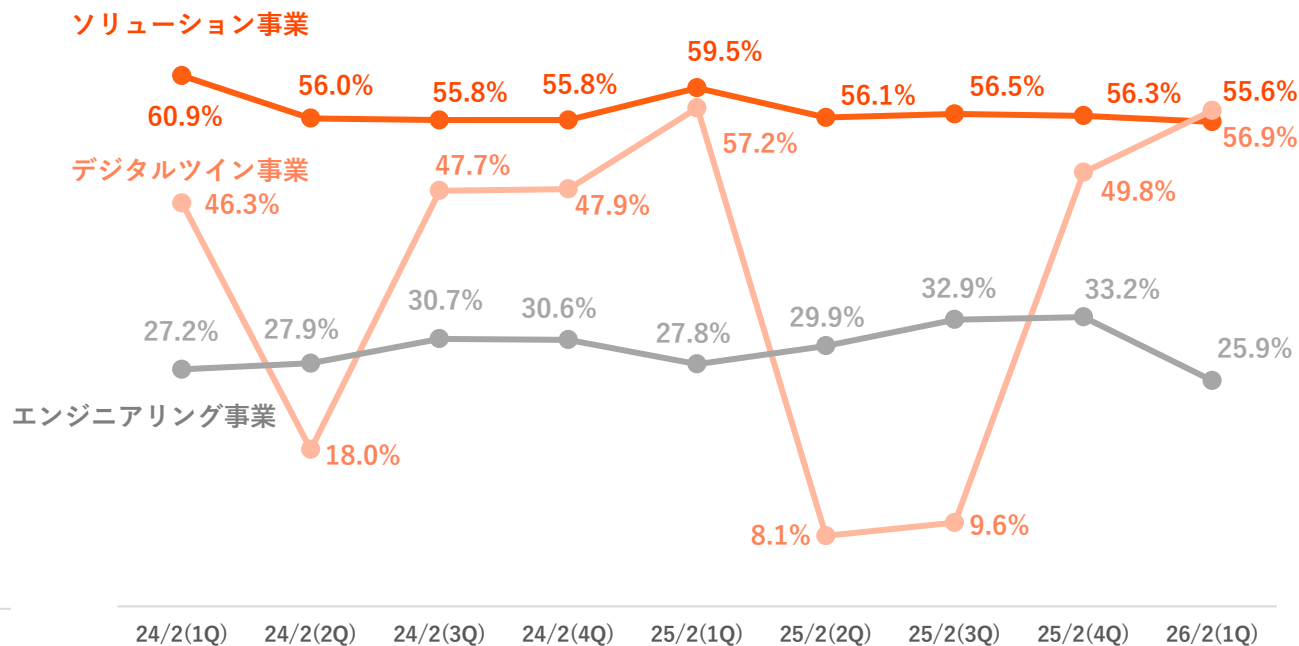
連結売上総利益・事業別売上総利益率の推移

第1四半期の連結売上総利益率は44.3%で着地。通期の連結売上総利益率は44.3%で計画しており、今期は下期に売上総利益率の上昇を見込んでいることから、特段の懸念はなし。ソリューション事業の売上総利益率は55%程度で安定的に推移。エンジニアリング事業は第1四半期は新卒のアサインが未済であるため、例年売上総利益率が低くなる傾向にある。

連結売上総利益率の推移



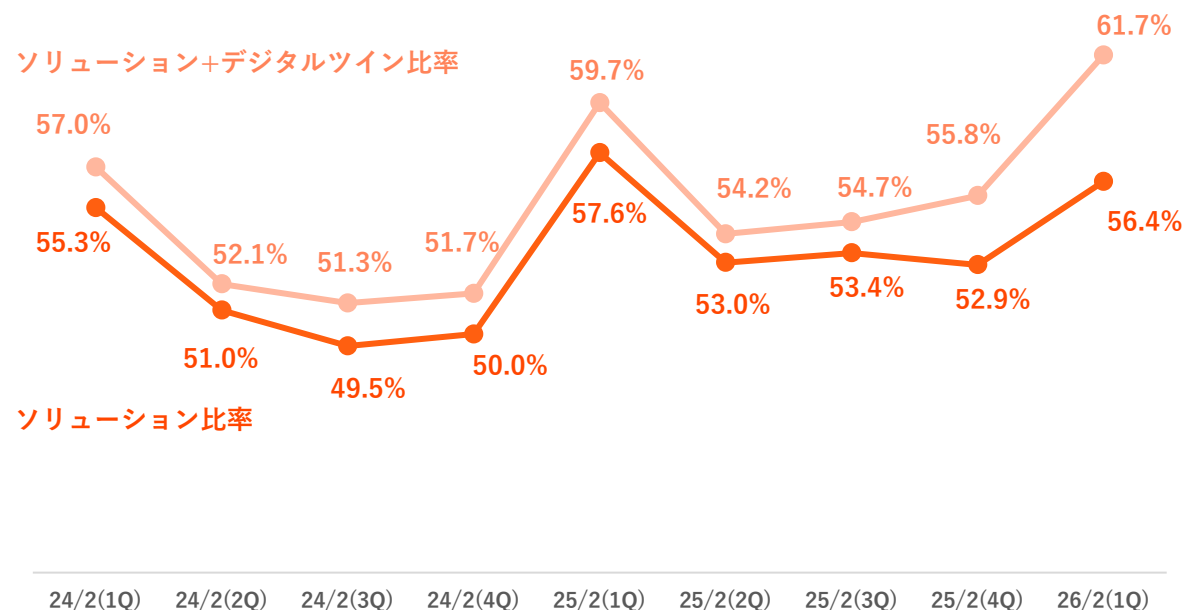
事業別売上総利益率の推移



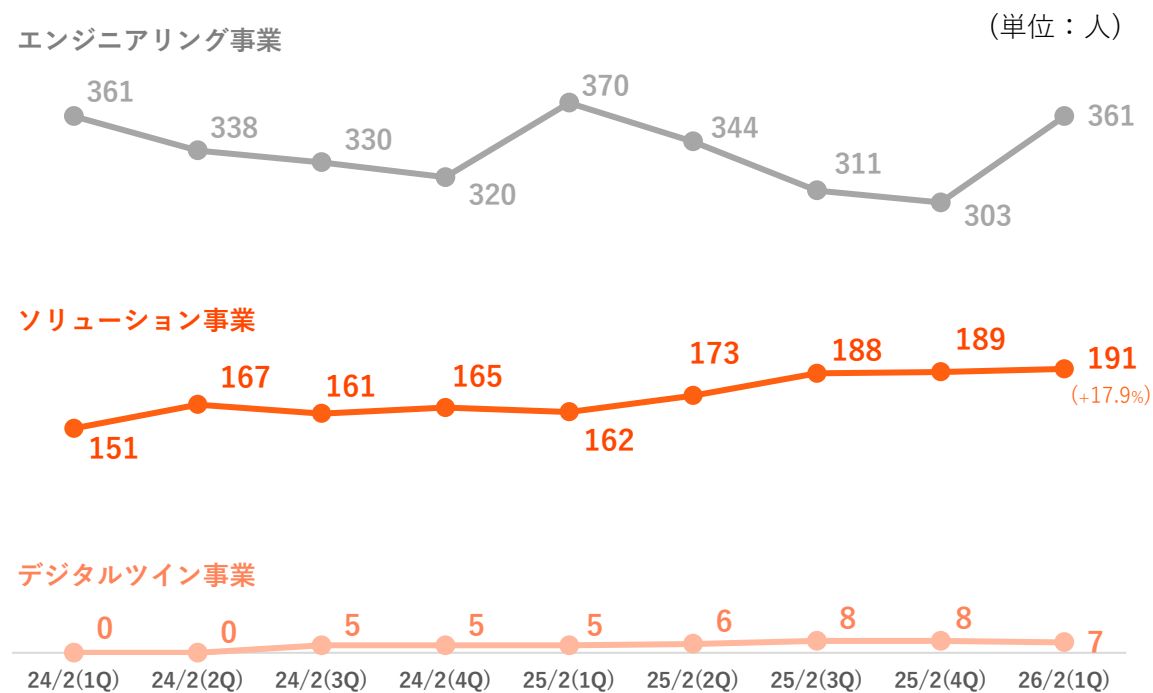
ソリューション比率・事業別人員数

2025年4月入社の新卒社員は78名。戦略的にソリューション事業への人員異動を進めた結果、ソリューション事業の期末人員数は前年同期比17.9%増。

ソリューション比率の推移



事業別人員数の推移



販管費の内訳（1Q）

販管費は計画の範囲内で推移。販管費のうち約50%を人件費が占める構造であり、人件費を適切にコントロールしていく他、採用費等のコストを戦略的に投下していく計画。

2025年3月～ 2025年5月(3ヶ月) (百万円)	前1Q		当1Q			
	実績	売上 構成比	実績	売上 構成比	前期差	前期比
売上収益	1,544	100.0%	1,544	100.0%	0	100.0%
販売費及び一般管理費	261	16.9%	308	19.9%	+47	118.0%
人件費	151	9.8%	155	10.0%	+4	102.6%
採用費	14	0.9%	24	1.6%	+10	171.4%
支払手数料・支払報酬料	40	2.6%	36	2.3%	△ 4	90.0%
減価償却費	25	1.6%	39	2.5%	+14	156.0%
その他	29	1.9%	52	3.4%	+23	179.3%

連結BS

IPO時の公募増資による調達資金は現預金（流動資産）および資本の部に計上。適切なキャッシュアロケーションを実施し、バランスシートマネジメントを行っていく方針。

(百万円)	2025年2月末		2025年5月末		
	実績	構成比	実績	構成比	前期差
流動資産	2,127	24.1%	3,740	35.6%	+1,613
現金及び現金同等物	905	10.2%	2,637	25.1%	+1,732
営業債権及びその他の債権	829	9.4%	686	6.5%	△ 143
棚卸資産	76	0.9%	34	0.3%	△ 42
非流動資産	6,702	75.9%	6,759	64.4%	+57
有形固定資産	1,354	15.3%	1,384	13.2%	+30
のれん	4,964	56.2%	4,964	47.3%	+0
無形資産	141	1.6%	136	1.3%	△ 5
その他の金融資産(非流動)	54	0.6%	83	0.8%	+29
繰延税金資産	164	1.9%	165	1.6%	+1
資産合計	8,830	100.0%	10,499	100.0%	+1,669

有利子負債

3,719 百万円

(25/2末との差 △119 百万円)

純有利子負債

1,081 百万円

(△1,852 百万円)

(百万円)	2025年2月末		2025年5月末		
	実績	構成比	実績	構成比	前期差
流動負債	1,685	19.1%	1,985	18.9%	+300
営業債務及びその他の債務	208	2.4%	295	2.8%	+87
借入金	327	3.7%	327	3.1%	+0
その他の金融負債(流動)	263	3.0%	287	2.7%	+24
非流動負債	3,486	39.5%	3,356	32.0%	△ 130
借入金	2,450	27.7%	2,291	21.8%	△ 159
その他の金融負債(非流動)	840	9.5%	870	8.3%	+30
資本	3,657	41.4%	5,157	49.1%	+1,500
資本金・資本剰余金	1,755	19.9%	3,017	28.7%	+1,262
利益剰余金	1,875	21.2%	2,112	20.1%	+237
負債及び資本合計	8,830	100.0%	10,499	100.0%	+1,669

株主資本比率

49.1 %

(+7.7 pt)

のれん株主資本比率

96.2 %

(△39.5 pt)

連結CF

2025年3月～
2025年5月(3ヶ月)
(百万円)

	前1Q	当1Q		
	実績	実績	前期差	前期比
現金及び現金同等物の期首残高	792	905	+113	114.3%
営業活動によるキャッシュ・フロー	834	735	△ 99	88.1%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 200	△ 34	+166	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 208	1,030	+1,238	-
現金及び現金同等物の増減額	425	1,731	+1,306	407.3%
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,218	2,637	+1,419	216.5%
フリーキャッシュフロー (営業CF+投資CF)	634	701	+67	110.6%

2026年2月期 通期連結業績予想の修正

2026年2月期 連結業績予想（修正計画）

前期に支払い済の和解金500百万円に関連した受取補償金201百万円を「その他の収益」として計上予定であることから連結業績予想を修正。合わせて、米国の関税政策の自動車業界への影響を踏まえ、デジタルツイン事業の売上収益・売上総利益の見通しを修正。売上収益・売上総利益の事業別内訳および上期・下期の内訳は次スライド参照。

(百万円)	2025年2月期 通期		2026年2月期 通期業績予想(期首計画)			
	実績	売上 構成比	計画	売上 構成比	前期差	前期比
売上収益	5,649	100.0%	6,388	100.0%	+739	113.1%
売上総利益	2,592	45.9%	2,899	45.4%	+307	111.8%
販売費及び一般管理費	1,174	20.8%	1,284	20.1%	+110	109.4%
その他の収益	19	0.3%	0	0.0%	△ 19	0.0%
その他の費用	522	9.2%	35	0.5%	△ 487	6.7%
営業利益	914	16.2%	1,580	24.7%	+666	172.9%
調整後営業利益	1,414	25.0%	1,580	24.7%	+166	111.7%
税引前利益	856	15.2%	1,518	23.8%	+662	177.3%
当期利益	584	10.3%	1,050	16.4%	+466	179.8%

2026年2月期 通期業績予想(修正計画)					
計画	売上 構成比	前期差	前期比	期初計画比 差額	期初計画比
6,236	100.0%	+587	110.4%	△ 152	97.6%
2,765	44.3%	+173	106.7%	△ 134	95.4%
1,284	20.6%	+110	109.4%	0	100.0%
201	3.2%	+182	1,057.9%	+201	-
35	0.6%	△ 487	6.7%	0	100.0%
1,648	26.4%	+734	180.3%	+68	104.3%
1,446	23.2%	+32	102.3%	△ 134	91.5%
1,586	25.4%	+730	185.3%	+68	104.5%
1,098	17.6%	+514	188.0%	+48	104.6%

2026年2月期 連結業績予想（修正計画） 売上・粗利内訳

当社の主要顧客である自動車業界は米国の関税政策や為替等の影響により、今期の予算消化に慎重な姿勢を示しており、一部の案件が下期にズレ込む見込み。顧客が100%自動車業界であるデジタルツイン事業の売上収益および売上総利益を下方修正したため、連結売上収益および連結売上総利益の通期計画に影響（期首計画比 連結売上収益△152百万円、連結売上総利益△134百万円）。ソリューション事業・エンジニアリング事業の業績予想の変更はなし。

(百万円)	2025年2月期 連結業績(実績)			
	上期実績	売上構成比 粗利率	下期実績	売上構成比 粗利率
売上収益	2,771	49.1%	2,877	50.9%
ソリューション事業	1,469	26.0%	1,520	26.9%
デジタルツイン事業	32	0.6%	127	2.2%
エンジニアリング事業	1,269	22.5%	1,229	21.8%
売上総利益	1,205	43.5%	1,389	48.3%
ソリューション事業	823	56.0%	860	56.6%
デジタルツイン事業	2	6.3%	77	60.6%
エンジニアリング事業	379	29.9%	451	36.7%

2026年2月期 連結業績予想(修正計画)								
上期計画	売上構成比 粗利率	前期比	下期計画	売上構成比 粗利率	前期比	通期計画	売上構成比 粗利率	前期比
2,944	47.2%	106.2%	3,292	52.8%	114.4%	6,236	100.0%	110.4%
1,561	25.0%	106.3%	1,823	29.2%	119.9%	3,385	54.3%	113.2%
104	1.7%	325.0%	145	2.3%	114.2%	250	4.0%	156.3%
1,277	20.5%	100.6%	1,323	21.2%	107.6%	2,601	41.7%	104.1%
1,272	43.2%	105.6%	1,493	45.4%	107.5%	2,765	44.3%	106.6%
858	55.0%	104.3%	989	54.3%	115.0%	1,848	54.6%	109.7%
46	44.2%	2,300.0%	90	62.1%	116.9%	137	54.8%	173.4%
367	28.7%	96.8%	413	31.2%	91.6%	780	30.0%	94.0%

Appendix

2026年2月期における重点戦略

1

ソリューション化の更なる推進

主要取引先との取引深耕と新規顧客の開拓

- 主要取引先との長期継続プロジェクトの取り組み強化
- 新規顧客・部署・新規技術領域の開拓

2

技術強化

特化する5つの技術ドメインの磨き込み

- SA・PMの採用によるPT専門技術領域毎の体制強化
- 最先端技術を活用したソリューション案件の実行と経験・ノウハウの蓄積

3

人材の採用・育成

新卒社員の採用・育成と即戦力中途社員の獲得

- 25年入社新卒社員の戦力化と26年新卒採用に向けた活動強化
- SA・PMを中心とする高スキル中途人材の獲得

ソリューション事業強化の戦略

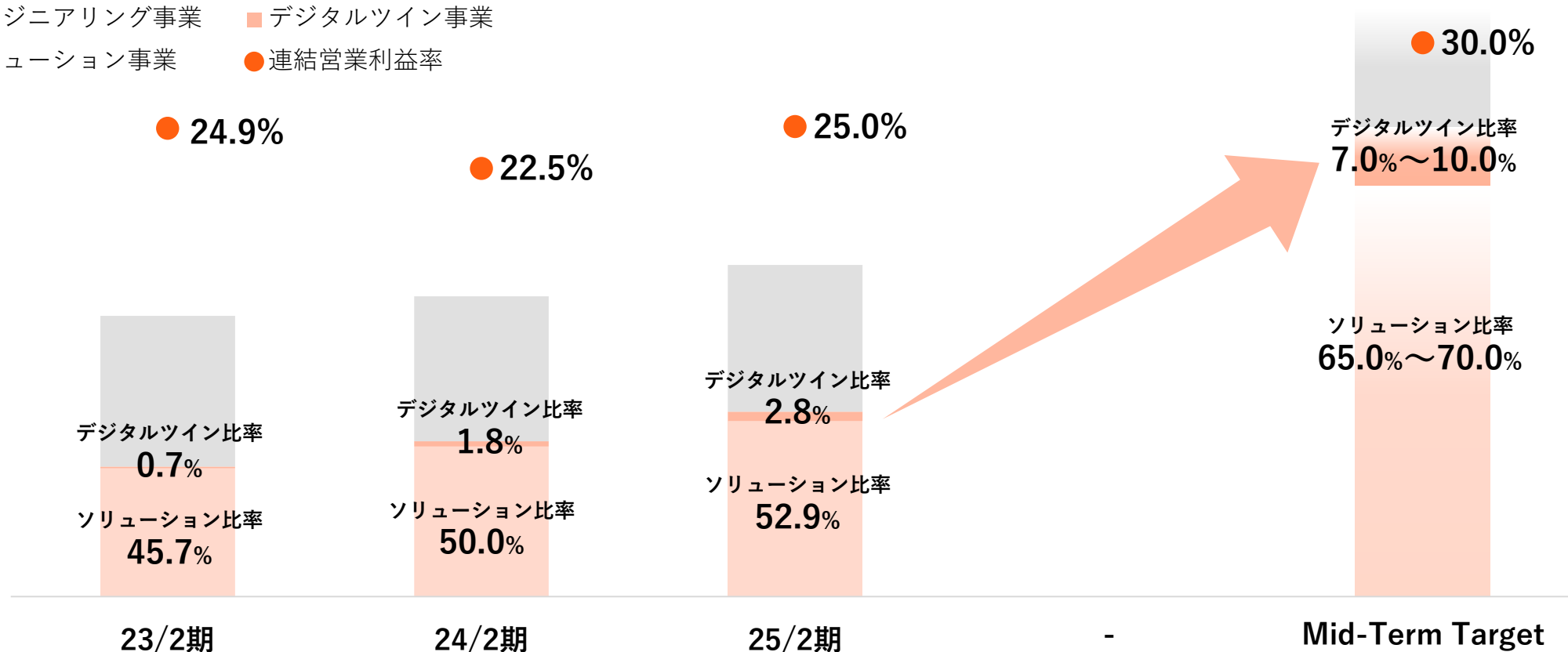
ソリューション化の実現に向けて、3つの戦略を実行。顧客の真の課題解決のための技術展開・サービス強化・人的リソースの確保を同時に進めていく。



中期的なターゲット水準

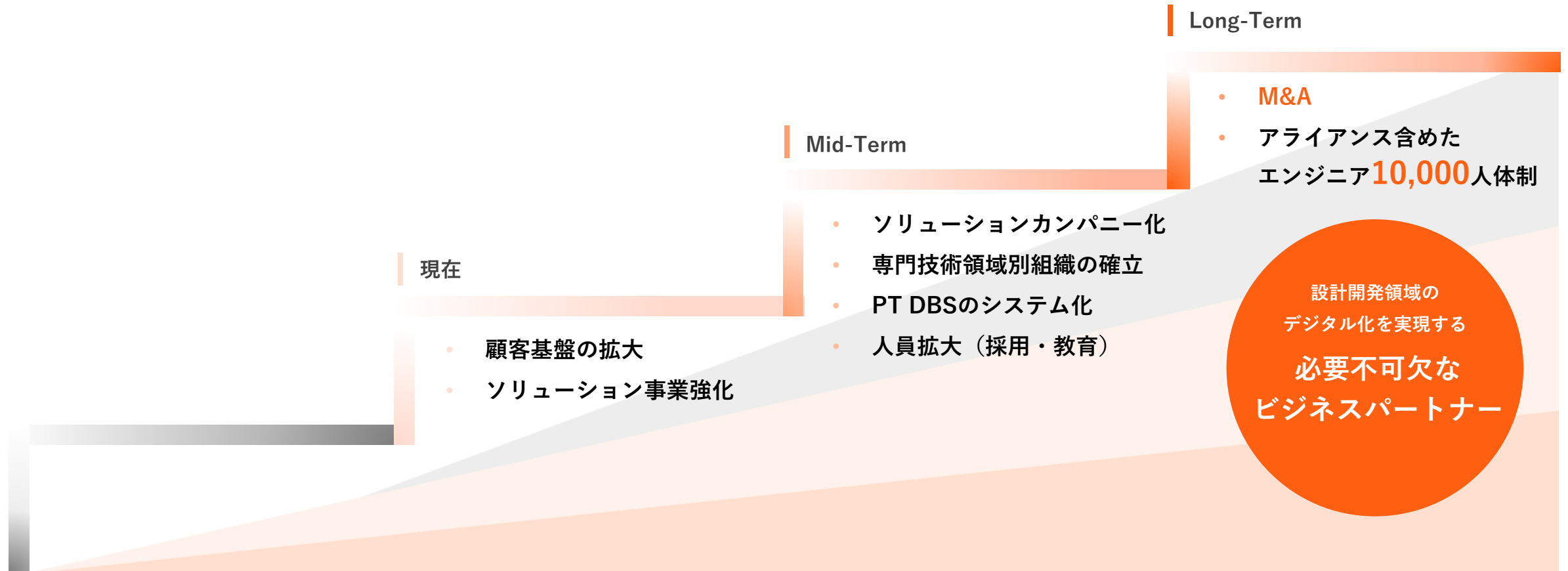
中期的なターゲットとして、ソリューション事業で65%~70%、デジタルツイン事業で7%~10%の売上高構成比、連結営業利益率30%を設定。ソリューション事業・デジタルツイン事業の強化と適切なコスト管理による収益性の向上を図る。

■ エンジニアリング事業 ■ デジタルツイン事業
■ ソリューション事業 ● 連結営業利益率



プログレスグループの目指す姿

短期～中期では、技術強化や人材獲得・育成による組織作り等の戦略を進め、完全なソリューションカンパニーに脱皮。長期的にはM&Aやアライアンスを活用しながら、日本の製造業にとって必要不可欠なパートナーとしての地位を確立する。



プログレス・テクノロジーズ グループ概要

会社概要

社名	プログレス・テクノロジーズ グループ株式会社
設立	2020年6月
本社	東京都江東区青梅1-1-20 ダイバーシティ東京オフィスタワー15階
代表者	代表取締役 中山 岳人
資本金	644,409,515円 ※2025年5月末時点
従業員数	556名（連結）※2025年2月末時点
グループ会社	プログレス・テクノロジーズ株式会社、 S&VL株式会社

製造業の設計開発領域に特化

ソリューション事業・デジタルツイン事業に注力

ソリューション事業

- デジタルツールの選定からプロセス構築、運用定着までのワンストップソリューションを提供
- 設計開発プロジェクトの一括引き受け

デジタルツイン事業

- 高度なデジタルツイン技術を用いたフロントローディングソリューションを提供
- 最先端ドライビングシミュレータの活用

エンジニアリング事業

- 設計開発人材の提供
- 設計開発実務のサポート

コーポレートスローガン



世界を進める、一歩を。

プロGRESS・テクノロジーズグループのコーポレートスローガンは、
進歩、前進、発展を意味する「プロGRESS」を社名に持つ私たちの企業姿勢を表現しています。

世の中に変化をもたらすその一歩を、お客様とともに踏み出し、
ものづくりの未来を創るパートナーでありたいと考えています。
そのために私たち自身も、勇気と信念を持って挑戦し続けています。

メーカーの課題とフロントローディングの重要性

技術の進展による製品要求の多様化・高度化を背景とした工数増加に伴い、メーカーによる自社完結が困難に。
市場での競争優位性を高めるには、前倒し可能な作業を設計開発の段階で作り込むことが不可欠（フロントローディング）。

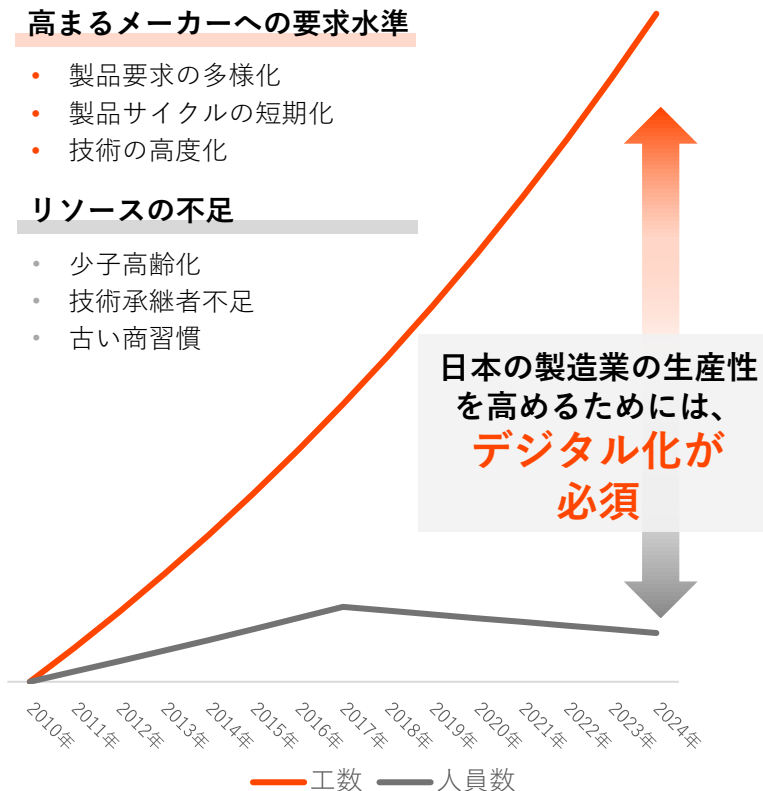
要求水準の高まりとリソース不足

高まるメーカーへの要求水準

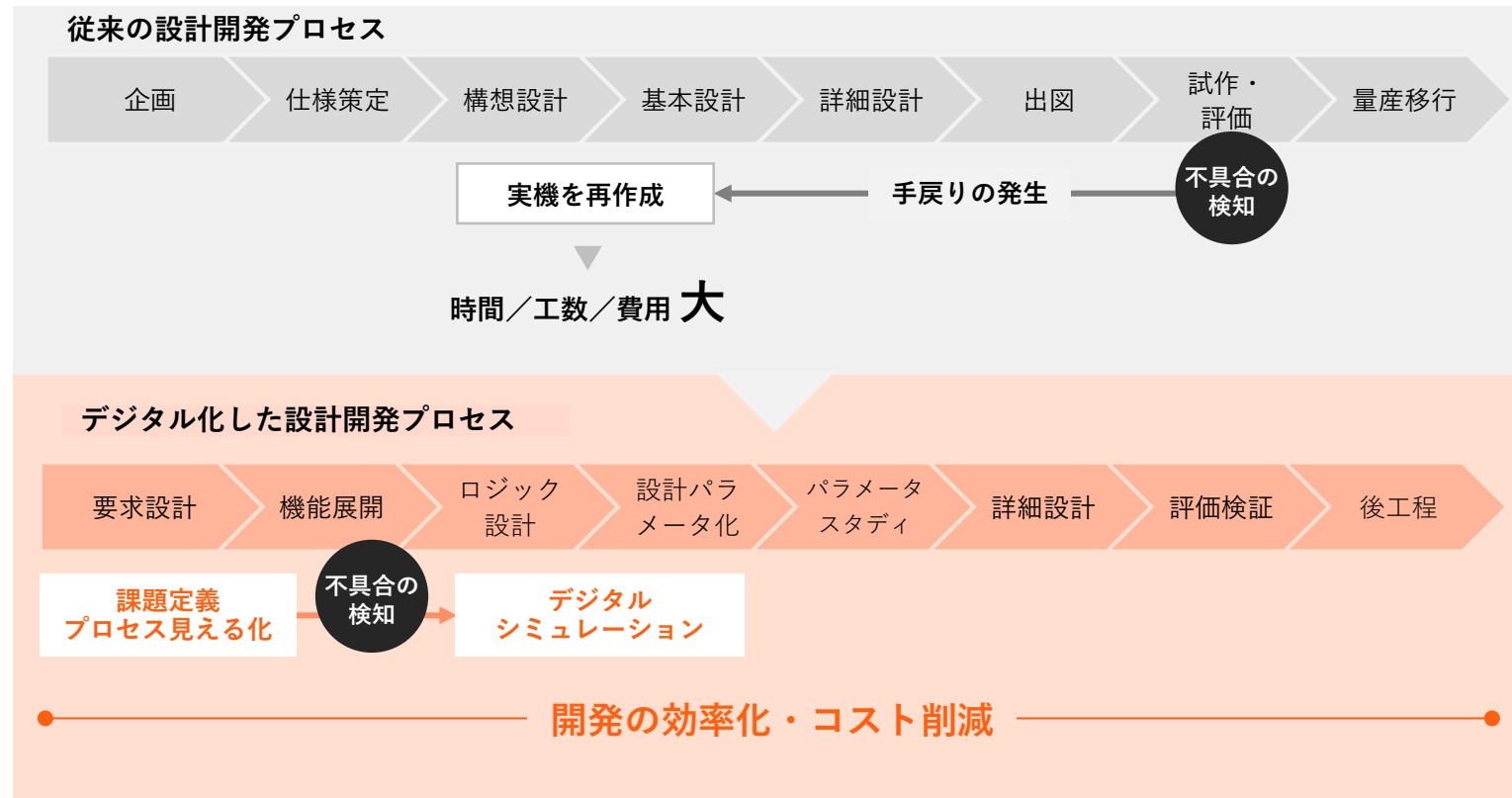
- ・ 製品要求の多様化
- ・ 製品サイクルの短期化
- ・ 技術の高度化

リソースの不足

- ・ 少子高齢化
- ・ 技術承継者不足
- ・ 古い商習慣



不具合の検知タイミングの前倒し（フロントローディング）

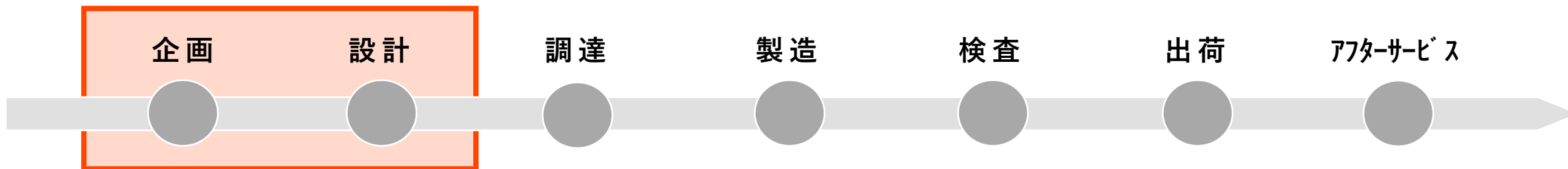


プログレスの提供価値（領域特化で高い付加価値を実現）

設計開発領域に特化し、課題の抽出からツールの選定、プロセスの設計、運用定着をワンストップで実行。
最先端技術が集積する業界に特化し、グローバルの競争力を持った国内トップ企業との取引を実現。



設計開発領域



製品開発プロセスの上流工程に特化

日本の最先端技術が集積する5つの業界に特化

設計部門を中心とした製品開発プロセスの上流工程

市場調査、商品企画、基本設計、システム設計、工程図の作成

自動車

半導体

精密
機械

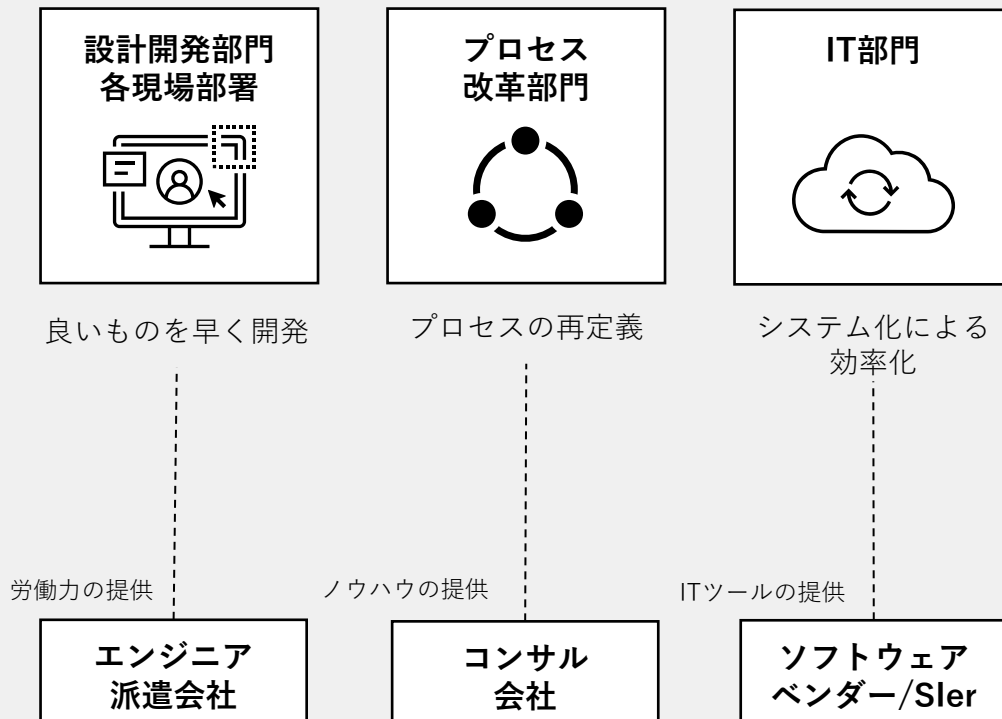
医療

重工業

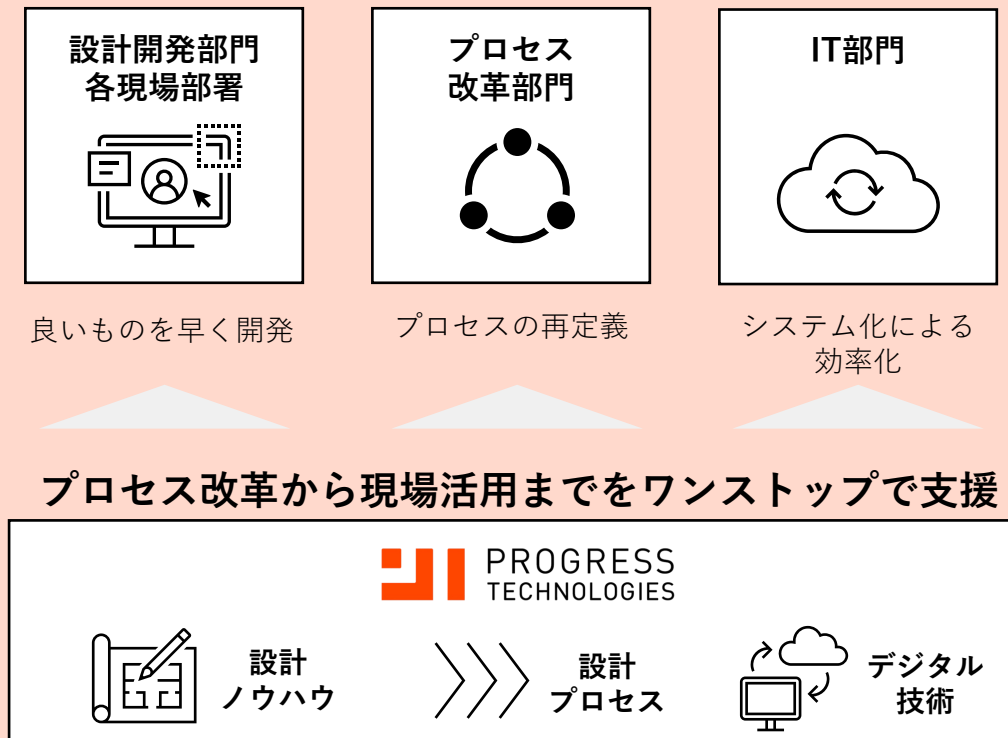
プロGRESSの提供価値（ワンストップソリューションの提供）

設計開発部門を中心とする製品開発プロセスの上流工程に特化し、ワンストップソリューションを提供。
ツールの提供や工数の提供に留まらない真の課題解決を実現。

各部門へピンポイントソリューションを提供



部門横断でワンストップソリューションを提供



エンタープライズ企業との取引実績

先端技術開発を行う業界の上位企業との取引に注力。高い技術力と課題解決力が評価され、エンタープライズ企業との取引深耕を実現。



自動車

- 本田技研工業株式会社／株式会社本田技術研究所
- トヨタ自動車株式会社
- 株式会社SUBARU
- マツダ株式会社
- 日産自動車株式会社
- 日野自動車株式会社
- いすゞ自動車株式会社
- Astemo株式会社
- ジャトコ株式会社

半導体

- 東京エレクトロン株式会社
- 株式会社アルバック
- 株式会社東京精密
- ファスフォードテクノロジー株式会社
- 株式会社ディスコ

精密機械

- ソニー株式会社
- 株式会社キーエンス
- 富士フイルム株式会社
- パナソニック株式会社
- 富士通株式会社
- YKK株式会社

医療

- テルモ株式会社
- コニカミノルタ株式会社
- オリンパス株式会社
- ニプロ株式会社
- 参天製薬株式会社
- HOYA株式会社

重工業・建機

- 三菱重工株式会社
- 株式会社IHI
- 川崎重工業株式会社
- 株式会社東芝
- 株式会社日立製作所
- 株式会社小松製作所
- 日立建機株式会社

最先端技術への取り組み（デジタルツイン事業）

高性能ドライビングシミュレータのバーチャルテスト環境を提供するアジア初のデジタルツイン専門サービス。
試作車1台の製造費用が数千万円～1億円とされる中、主要自動車メーカーが掲げる「試作車ゼロ」の目標に貢献する価値を提供。

1 アジア初のデジタルツイン専門サービス

アジア域内初¹となる最先端ドライビングシミュレータをコアとしたバーチャル・シミュレーション技術の専門サービスを提供。
現状、当該サービスを専門で行う**競合他社は存在しない**。

2 シミュレーション技術による新車開発の効率化とコスト削減への貢献

新車設計において、シミュレーション技術を活用することで、試作車の製造台数をこれまでの数十台から十数台に削減し、**コストや時間を大幅に効率化**することが可能に。

3 既存顧客を中心とした営業活動と独自性のあるサービス展開

主要取引先であるホンダへの営業に加え、他自動車OEMメーカーからも案件を獲得。営業活動では、**S&VL社代表の村松や自動車OEM出身の技術メンバーのネットワーク**を活用。



ディスクロージャー・IRポリシー

株主・投資家の皆様との建設的な対話と経営上の重要な課題と位置づけ、IR活動に取り組んで参ります。

● IRカレンダー

当社の決算期は2月末日です。四半期ごとにアナリスト・機関投資家向けの決算説明会を開催予定です。



● 沈黙期間(IR自粛期間)

決算数値等の漏洩防止を目的として、各四半期の期末日の翌日から各決算発表日までを沈黙期間(IR自粛期間)としております。この期間中は、決算・業績見通しに関する質問への回答やコメントを差し控えております。

問い合わせ先、ディスクレーマー

● IRに関するお問い合わせ

プログレス・テクノロジーズ グループ株式会社 IR

TEL：050-3816-9386 / e-mail：ir@progresstech.jp

● 次回決算発表(予定)：2026年2月期 第2四半期決算

2025年10月14日(火)：決算発表(決算短信の開示)

2025年10月15日(水)：決算説明会(アナリスト・機関投資家向け)

本資料の注記

- ・ 本資料は、監査法人による監査を受けておりません。
- ・ 金額は、表示単位未満を切り捨てて表示、%(パーセント)で表示する項目は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。
- ・ 売上構成比、前期差、前期比及びその他%(パーセント)で表示する項目は、表示単位未満を切り捨てた金額で計算しております。

見通しに関する注意事項

本資料につきましては、株主・投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、株主・投資家の皆様ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

世界を進める、一步を。



PROGRESS
TECHNOLOGIES